

第4章 気候変動による影響への適応策

1 適応策の推進に向けた目標

気候変動による影響は、市内でも様々な分野で確認されており、すでに生じている影響に対して各種適応策を講じてきたところです。地球温暖化が進行すれば、気候変動影響はさらなる深刻化が懸念されます。今後、中長期的な視点に立って、気候変動の適応に取り組んでいくことが必要です。

そこで、本計画では、「人と自然が調和し みんなでつくる 持続可能なまち 那須塩原」を実現することを目指します。市民の生命・財産を将来にわたって守り、経済・社会の持続可能な発展を図る適応策を推進していきます。

目標	「人と自然が調和し みんなでつくる 持続可能なまち 那須塩原」の実現に向けて、市民の生命・財産を将来にわたって守り、経済・社会の持続可能な発展を図る。
----	---

2 施策体系

適応策は、那須塩原市気候変動適応センターが中核となって、地域における適応の取り組みこととし、「農業に及ぼす影響に適応する」、「水環境や自然環境に及ぼす影響に適応する」、「自然災害による被害を最小限に抑える」、「健康に与える影響を把握し軽減する」、「産業・経済活動や生活環境への影響に適応する」の5つのテーマを掲げ、施策を展開していきます。

また、重点的かつ優先的に取り組むべきものについては、重点プロジェクトに位置づけ、集中的に取り組めます。

適応策に係る施策体系は、次のとおりです。

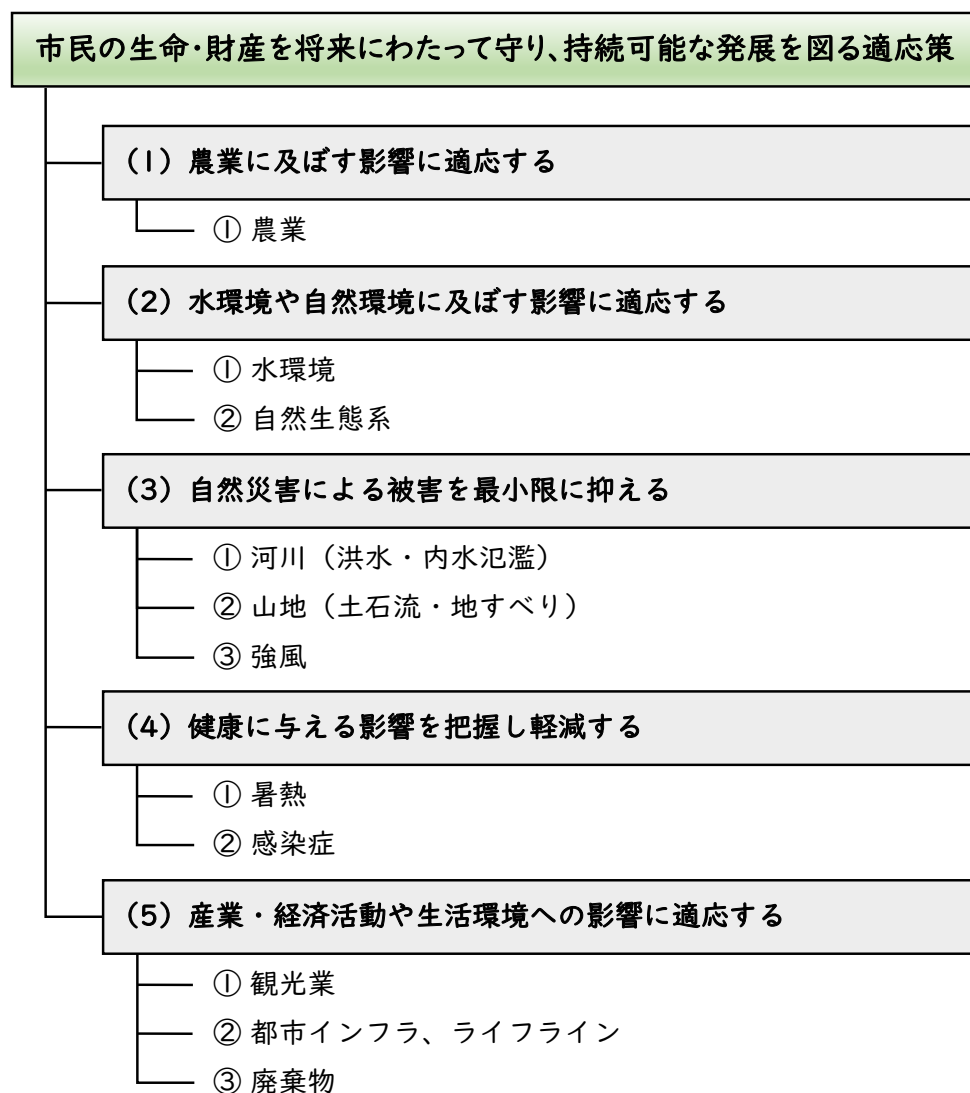


図 4-1 適応策の体系

3 適応策の取組

3.1 農業に及ぼす影響に適応する



(1) 農業

<主な取組>

- 水稲では、高温による品質低下を防止するため、高温影響を回避する栽培方法や高温耐性品種の普及に努めます。また、水不足や高温に対する技術対策の周知を図ります。
- 野菜や果樹、その他作物では、高温による品質低下を防止するため、収量低下や生育障害の発生を抑制する気候変動に対応した品種又は品目の普及に努めます。
- 畜産では、熱ストレスに対処するため、畜舎内の暑熱対策や適切な飼養管理の普及に努めます。
- 病虫害や雑草の被害を防止するため、効果的な防除対策の普及に努めます。また、病虫害の発生状況や被害軽減策に関する情報提供を行います。
- 水源の涵養、自然環境の保全といった農地や農村が持つ多面的機能に関する取組事例の収集や情報提供を行います。

<市民・事業者が取り組む内容>

取組主体	取組内容
事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 作物を高温に強い品種に変えます。 • 作付け時期を調整して高温による影響を回避します。 • 牛や豚などの家畜にも暑熱対策として、換気や細霧冷房などの対策を講じます。 • 病虫害の発生状況に意識して、必要に応じて対策を講じます。 • 農業の作業時間の変更や休憩・給水時間を確保するなど、農業者自身の健康管理にも配慮します。